

人びとと歴史・文化がふれあう創造性豊かなまち。

柱にとつ「人びとと歴史 文化がふれあう創造性豊かなまち」があります。

これは、市民それぞれの個性や創造性を尊重し、知性と教養を高める人づくりをめざし、生涯教育の観点にたつた学校教育を推進するとともに、先人の残した文化財や民俗資料の保護、保存や伝

進し、あわせて障害児をもつ家族の精神的、経済的負担の軽減をはかるため、積極的に教育環境の整備を推進し、こ

れらの子供達が社会的に自立するための基礎的教育機関である道立養護学校の誘致を図りたいとしております。

そのほか、松前藩の交易場所として古くから知られ、ニシン漁業を中心にして栄えた留萌には数多くの文化遺産があり、このようなニシンの漁業や北前船の交易によつてもたらされた歴史と文化を学ぶことは、新しい文化創造のため、極めて大切とし、歴史・文化の学習施設としての資料館の建設をはかり、文化財の保護、保存、民俗文化の伝承を通じて、新たな地域文化の創造を推進して図りたいとしております。

《主要施策》

幼児教育の充実、義務教育の充実、特殊教育の充実、高等学校教育の充実、大学・研究機関などの誘致、生涯教育推進の体制づくり、スポーツ活動の充実、健全育成体制の確立、文化環境の整備、文化財保護思想の普及・国際交流活動の推進。

この基本構想をどのように推進していくのか。

基本構想は、市民と行政が力を合わせてより良いまちづくりをめざし、だれもが住み良い人間性豊かな郷土留萌を築くため、策定されたものです。このため、市民と行政の対話を深め、市民活動による市政への関心を掘り起こし、市民の意志が行政に反映されるに、行政の方向が市民にわたるよう、広報広聴活動の充実と組織体制の確立を図っていかねばならないとしております。

更に、基本構想を推進していくためには、長期的な財政計画に基づき、行財政の効率的な運用と、計画行政の推進体制を強化するとともに、組織、機能、人事、事務配分を見直し、ムダのない効率的、合理的な行財政運営を推進していかなければならないとしております。

更に、行政運営は「縦割り」の仕組みの中で行われて来ましたが、行政の役割が多様になり、財政的な制約も強くなる今後は、行政各部門が有機

的に結びつくような行政の展開が求められています。また、総合計画は、広い分野に渡って計画が盛り込まれているため、新しいまちづくりのポイントが解りにくくなっています。このため、新しいまちづくりで重要な位置を占め、留萌市の将来像を支える事業群を取り出し、わかりやすく体形化してまとめたのが「戦略プロジェクト」というもので、その中には、「マリンポリス留萌プロジェクト」などがあり、「誇れる街づくり」の中核となる施策、事業を明確にし、21世紀へ向けて力強く雄飛する留萌市の都市像「海と大地に未来を創造する都市」の実現につとめなければなりません。以上要約すれば、恵まれた自然の資源を有効利用し、その中で人びとがふれあい、市民文化を創造し、未来へ自信を持って贈ることのできる、そんな都市をめざしたい、ということになります。

